



技術錬磨、さらなる発展へ

住友化学



愛媛工場全景

愛媛工場



丹井場長

技術・製品の「多様性」、競争勝ち抜く強みに

住友化学の発祥の地、愛媛工場（愛媛県新居浜市）。銅の製錬で発生する排ガスの煙害解決のため、その原因となるガスから肥料を製造するを目的に1913年に創業した。愛媛地区は1世紀の歴史の中で、石油化学、無機製品、合成繊維原料など時代に合わせた主力を変え、いま工場を引っ張るのは肥料添加物メチオニン、リチウムイオン二次電池用セパレーターやディスプレイ部材、スーパーエンジニアリングプラスチックだ。クロロバルラスにおける研究開発、製造の中核拠点もあり、次代の持続的成長につなげるべく、積極的に経営資源を振り向けている。

愛媛工場は新居浜地区、菊本地区、大江地区（現在の大江工場）へと敷地を順次拡張していき、各地区は変革を繰り返しながら成長を牽引してきた。現在、新居浜は「セルメックリレー」の生産拠点として、菊本地区は「M&Mモノマー」やメチオニン、合成原料カプロラクタム、菊本はポリエチレンサルホンや液晶ポリマー、高純度アルミナ子会社でのポリカーボネート、大江はセパレーター、偏光フィルムを主力製品とする。愛媛工場は石油化学部門、大江工場は情報電子学問が所管するが、エネルギー・機能材料部門、健康・農薬関連事業部門、医薬品部門と幅広い事業が集積し、愛媛工場長の丹井が常務執行役員は「長い歴史の中で培った多様な技術・製品が最大の強み」と話す。

バルクケミカルからスシャリティまで多様な事業を置き、競争が激しい時代でも勝ち抜く工場基盤を築いてきた。多様な事業を築き出した背景にあるのは住友化学が愛媛に研究開発から工業化までの機能を集中してきたからだ。石油化学やエネルギー・機能材料、情報電子化学の研究開発、工業化技術研究所、生産安全基盤センターを構え、基礎研究からプロセス開発、プラント設計・建設や運転、保守の支援まで一貫して担っている。「安全・安定操業力、トラブル回避の対応力、技術開発力、情報力、コスト・現場人材確保力」が工場全体の力を磨きあげてきた（同）。このように長年にわたって積み上げてきた工場基盤にプラス、インフラの競争力の高さが愛媛工場のもう一つの強みだ。住友化学は新居浜市内に戸別30カ所と泉を保有し、工業用水の半分以上を自給する。電力は11の水力発電所と3カ所に火力発電所を保有する連結子会社の住友共同電力から100%受給している。化学プラントの競争力を決定づけるインフラの安心もさまざまな有望事業を呼び込むから肥料を作るという狙いは極めて明確だ。この狙いは東京ガス、LNG基地は東京ガス、成し遂げられないプロジェクトだ（同）。

建設が進むメチオニン新工場。愛媛工場が次に取り組むのが地球環境問題への対応だ。丹井場長は「持続可能な社会への貢献は工場が存続していくための大きな要件」と話す。それを具現化するテーマの一つが、同工場内での液化天然ガス（LNG）基地と天然ガス火力発電所の新設だ。住友化学では、CO₂排出量など環境負荷の大幅削減と、同工場での燃料転換などによるコスト削減の両立を見込む。LNG基地は東京ガス・エンジニアリング・ソリューションズ主導で、四国電力、住友共同電力と事業化を共同で検討しており、21年の操業を計画している。

住友化学 愛媛工場
〒792-8521 愛媛県新居浜市惣開町5番1号

クラレ



坂本所長

西条事業所

光学用ポパールなどオンリーワン品多数

クラレの西条事業所は、同社の創業の地である倉敷事業所に次いで2番目に古い歴史を持つ。創業は1936年（昭和11年）。昨年、80周年を迎えた。レイヨン系の生産でスタートし、ポパール（PVAフィルム）、ポリエステル長繊維の生産にも乗り出すことで生産品目を拡大してきた。その後、事業所をリードしてきたレイヨン産業が衰退し、レイヨン設備の縮小を余儀なくされるが、90年代に液晶用ポリマー繊維「ベクトロン」、スルトフロロー不織布といったクラレの新事業が西条事業所に持ち込まれた。95年、レイヨン生産から撤退すると、00年以降も耐熱ナイロン樹脂「ジエネスタ」、排水処理用PVAゲル「クラゲール」、液晶用リマフィルム「ベクスタ」などの新事業が立ち上がる。そして現在のバラエティに富んだオンリーワン製品を多数手がける陣容が整ったことになる。

西条事業所を語るうえで欠かせないのが光学用ポパールフィルム。世界シェアの約8割を握る同製品は、



西条事業所は数多くのオンリーワン製品を手がける重要拠点

増強進めシェア首位堅持

西条と倉敷の2拠点で製造、倉敷の製造能力1億平方メートルに対し、西条は今年1月、増設を完了し、製造能力を1.5倍引き上げた。レイヨン産業が消えゆく

力、量産レベルの物與ととも「光学用ポパールフィルム」の需要は急拡大し、クラレを代表する製品となった。ポエステル長繊維「クラバ」は、衣料繊維のアジアントに対抗するため早い段階から機能糸の開発に力を入れた。エチレンテレフタル酸ポリエステル（PET）は親水基を持つ。絹や麻の天然繊維のように水となじみがよく、さらさらの繊維の特長として吸水速乾性を発揮する。導電性繊維「クラカボ」はカーボン繊維を練り込んだポリエステル繊維。ユニフォームなどの帯電防止用途で用いられている。

ポリエステル繊維のノウハウを生かして開発したのが「ミネパール」。水溶性ポパール樹脂「エンバール」を溶解させた熱水に溶ける繊維。最終製品として残ることがないが、例えば無酸素アル用途で使用すると、熱水処理で溶解するため残った繊維同士に隙間が生まれ、かさ高性の向上やふんわりとした風合いにつながる。



事業所内で開催する「観桜会」には、たくさんの地域住民が訪れる。クラレ 西条事業所
〒793-8585 愛媛県西条市朔日市892

00本の桜の木が並ぶ本所として親しまれている。クラレを設立した大原孫三郎が創業間もない西条事業所を訪れ、「レイヨン工場と寄宿舎を復元する従業員の手による観桜会」として、毎年2日間、事業所を開放して開催する「観桜会」は20年以上続く恒例行事。1

員も西条市民が多い。坂本和繁所長は「敷地にまだ余裕があり、既存事業の増強や新規事業の立ち上げによって西条さらには活性化したい」と話す。また「安全・環境面とともに地域社会のつながりも大切」と夏祭りや子ども化学教室などを通じて社会貢献にも力を入れる。